

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬「白馬AIPS花三昧」特別企画の白馬五竜高山植物園の鑑賞会に家族で参加する。「白馬AIPS花三昧」は、白馬村観

光局在職中に企画した印象に残るイベントだ。白馬の自然を宣伝告知するため「花」に注目。今では、グリーンシーズンに無くてはならないイベントに成長している。だが、企画段階で、万全の植物園として整備してから開園したい地元

花三昧」メイン会場としてスタート、学術的な意味合いを濃くして、国際的に通じる植物園を目指し「白馬五竜高山植物園」へと名称変更、2013年5月には、長野県初の日本植物園協会に加盟。今年6月には秋篠宮殿下の臨席での「公社」日本植物園協会の第51回大会・総会」も開催された。

デ内に造設された会場は、人工植物園そのものだった。だが、今は自然植生ありのままの姿に。企業の努力と地域関係者の熱意ある取り組みの積み重ねのおかげだろう。高山植物生態園スイスアルプスヒマラヤエリアで除草作業

実生の樹木が多く、虫が飛び交う自然環境。作業や鑑賞には、厄介な存在だがこの虫が、植物にとっても多くの自然の恵みを与えてくれている。事前知識で虫よけ対策をしなが

地域資源に出合う大切さを感じるために積極的に出掛けてみませんか

雪線より下の地帯だった事。山岳では、高度が1000m増すごとに、平均1度の気温が低下する事。朝晩の気流により、植物垂直分布の特異性が発生する事など次々と思いつ

す。現場に出掛け、自然と向き合う大切さを改めて感じた機会でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



標高3000m以上で育つ、青さ際立つ「ヒマラヤの青いケシ」、定植で無い芽をうれしそうに教える中西の笑顔が素敵だ